

オリコンサル

南紀白浜と業務提携

維持管理で地方空港支援

オリエンタルコンサルタンツは、1日から南紀白浜空港の運営事業を開始した南紀白浜エアポート（和歌山県白浜町、岡田信一郎社長）と業務提携契約を締結した。空港の

土木施設維持管理分野での効率化・高度化を支援するほか、周辺地域の観光・地域活性化分野や白浜町内の観光シーズン期における交通渋滞緩和に関して、これまで培ってきた

技術やノウハウ、独自開発したツールなどを活用して提案
・検討していく。

15日には、同空港ターミナルビルでオリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長と南紀白浜エアポートの岡田社長が発表し、業務提携の内容や目的を説明するとともに、その意義を強調した。

今回の業務提携によりオリエンタルコンサルタンツは、空港の土木施設維持管理分野でアセットマネジメントや災害リスク対応に関する専門技術、独自に開発したITツールなどを活用し、空港施設の長寿命化や維持管理の効率化・高度化を進める。周辺地域との観光・地域活性化分野では、白浜町内にとどまらず紀南地域全体の回遊促進や滞在時間の増加などを目的に小型EV車の展開などを提案。交通分野では同町内の海水浴や花火シーズンでの渋滞緩和を目指し、公共交通の利用促進や即時交通情報提供による交通分散などを検討していく。

同空港は、和歌山県が設置・管理する地方管理空港で滑走路は2000㍎。現在、日

本航空が羽田（東京）との定期便を1日3往復就航。2018年度は開港以来最高の年間利用者16万人を記録した。